

受講番号 18017 学校名 高知南高等学校 氏名 金井 美穂

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年1H(β講座) 生徒数 24名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 POWWOW ENGLISH COURSE

クラスの様子・特徴

主に大学進学を目指した5教科型のクラスで、習熟度別に二つに分けた際、より手助けを必要とする講座である。男子に活気があるが、中に落ち着きに欠ける生徒がいる。高2になり徐々にではあるが勉強に取り組もうとする姿勢が見られるようになっていく。

問題の確定

中学校レベルの文法・単語などの基礎・基本が定着していない。また、英語の基本的な主語＋動詞という文構造も定着していない。

予備調査

A 授業の観察

ペアワークをさせると、取り組みはなかなか良い。男子の元気の良さもあって、音読の時は声がよく出ているが、個別に読ませると、新出単語以外の単語の読み方が分からない生徒が多い。中に集中力が持続しない生徒もあり、活気が脱線へつながることもある。

B 生徒による授業評価

英語の授業は、あまり好きではない、または好きではないという回答が8割を超えている。高1の時は授業に積極的に取り組んでいるが、予習はあまりできていない。授業の理解度も高くない。音読に関しては、半数が好き、わりと好きと回答している。

C 学力データ

中学校の基本的文法事項に関するテストでは正答率が6割で、語彙力もあまり高いとはいえない。動名詞や比較級・最上級、受動態、間接疑問文の分野が特に正答率が低く、書き換えや並べかえの問題に苦手意識を持っている。

リサーチ・クエスト

教科書の英文の内容を理解した上で、英語の文構造や意味のかたまりを意識させながら音読を積み重ねていくと、英語自体に頭や口が慣れて並べかえなどもできるようになるのではないかと。教科書がきちんと音読できるようにするにはどうすればよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

教科書に出てくる単語が定着すれば、音読活動もスムーズに取り組めるのではないかと。

実践1

語彙ワークシートを用いて、毎時間授業の最初にペアで単語や熟語を覚える活動を行う。片方が日本語を言って、もう一方が語彙リストの中からその英語を探して答えるというパターンを基本とし、制限時間を設けて活動にメリハリをもたせるようにする。また、定期的に単語テストを実施し、読めるだけでなく書けるようになるよう指導する。

検証1

ペアで単語を出し合う活動は、継続的に行うことにより、授業の最初の活動として定着し、ほとんどの生徒が意欲的に活動に取り組んでいる。単語テストは、実施回数が2回と少なく問題数も多くなってしまった。一度の問題数を少なくし、実施頻度を多くするべきだった。ただ、単語テストの実施により、多くの生徒が何度も書いて覚えようと努力したことが、定期テストでの語彙分野の正答率上昇につながったと考えられる。

仮説2

意味のかたまりを意識してフレーズリーディングを行うことにより、英語が頭の中に残っていくのではないかと。

実践2

フレーズ毎にスラッシュを入れた音読用ワークシートを使用して、意味のかたまりを意識して音読練習する。その際、空読みさせないようワークシートに工夫をする(音読用ワークシートにレベルを設定して、生徒が自分で選んで練習できるようにする)。内容理解の際も、フレーズ毎に前から順番に意味をつかんでいくよう指導する。

検証2

フレーズ毎に区切った音読用ワークシートは、8割の生徒が音読練習のときに役に立ったとアンケートで答えており、フレーズリーディングの助けとなったようだ。生徒が自分の力で意味のかたまりを意識して英文を読んでいくためには、こちらが先にフレーズを提示するのではなく、自分でフレーズに区切る練習も取り入れていかなければならない。

仮説3

内容理解を効率よく行い、音読練習の時間を確保し、音読方法を工夫すると生徒も飽きずに取り組めるのではないかと。

実践3

内容理解を効率よく行えるようワークシートを活用する。音読方法を工夫する(テキストを見ながらフレーズ毎にRepeating 個人読み(Buzz reading、制限時間を決める) Parallel reading Read&Look-up(ペア・一斉) Shadowingなど)。学期に一度は一人ずつ音読テストを実施する。また、授業中の音読練習の際、読めているかを定期的にチェックする。

検証3

内容理解のワークシート活用することにより、音読練習の時間をこれまでに比べて増やすことができた。音読方法も単調にならないよう工夫した。多くの生徒が、音読練習に積極的に取り組んでいる。個別の音読テストでは、以前に比べてずらずら読める生徒の割合が増えた。授業の中で一人ひとりが音読できているかのチェックを頻繁に行い、つまり箇所などを全体で共有でき、よりスムーズに音読できるようになった。

研究の成果

音読の重要性をまず生徒に説明し、授業で特に音読練習に力を入れていくことを伝えたこともあって、クラスのほとんどが積極的に音読練習に取り組んでいる。2学期末のアンケートでの音読が好きか嫌いかの回答は、割合は半々で以前と変わっていなかったが、7割の生徒が以前と比べて英語を読む力が伸びていると感じていて答えている。定期テストや模擬試験の結果に大きく反映されているわけではないが、授業で何度も英文を読んでおくことによって、復習がしやすい、内容が頭に入りやすい、単語の読み方がわかると書き方も分かってくるなどの声が聞かれた。

今後の授業改善の課題

音読練習の時間は多かったが、練習方法がパターン化されるとどうしても飽きてくるのがあった。回数が多くても飽きずに練習できるよう工夫が必要である。また、ペアワークでの音読練習が考えていたほど取り入れられなかったため、今後は積極的に取り入れたい。また、リスニングの機会を増やして、英語に触れる時間を少しでも長くしていきたい。継続的に単語テストや音読テストを実施し、反復して取り組むよう指導し、生徒の基礎的な学力の定着につなげていかなければならない。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-831-2811

電子メール

miho_kanai@kt5.kochinet.ed.jp